令和５年度第２回 横浜市地域福祉保健計画　策定・推進委員会	
日　　時	令和５年11月22日（水）14時00分～16時25分
開催場所	横浜市役所 18 階共用会議室　みなと１・２・３会議室
出 席 者	有本委員、生田委員、内田委員、内海委員、宇野委員、久保田委員、小宮山委員、佐伯委員、坂本委員、佐藤委員、塩田委員、名和田委員、西尾委員、福本委員、星委員、本宿委員、増子委員、山田委員、山野上委員（19名）
欠 席 者	小林委員、鶴見委員、水野委員（３名）
開催形態	公開
議　　題	議事【議事１】パブリックコメント実施結果の公表について 【議事２】第５期横浜市地域福祉保健計画評価方法について 【議事３】第５期横浜市地域福祉保健計画 原案（案）について 報告【報告１】区地域福祉保健計画策定・推進指針の進捗について
決定事項	【議事１】パブリックコメントの実施結果について、各委員から意見を聴取し、事務局案に対して、各委員の了承を得た。 【議事２】第５期横浜市地域福祉保健計画評価方法について、各委員から意見を聴取し、事務局案に対して、各委員の了承を得た。 【議事３】原案（案）について、各委員から意見を聴取し、事務局案に対して、各委員の了承を得た。
議　　事	**【議事１】パブリックコメント実施結果の公表について** **（事務局）**資料１について説明 公表のスケジュールについては、本日の委員会で承認いただけた場合、事務局の準備が整い次第、市のホームページにて公表したいと考えている。こちらでは公表の様式がこの形でよろしいかどうか、ご意見に対する対応（対応分類１番から４番）についてもよろしいかをお諮りしたい。 **（名和田委員長　）**ありがとうございました。このパブリックコメントの結果を速報として第１回委員会で報告があったが、今回、全部が我々の目の前に報告された。事前にお目通しされたと思うが、かなり膨大なものとなる。パブリックコメントの実施結果をこのように行いたいという提案である。これについて意見交換したいと思うが、時間が限られているので、発言はなるべく２分以内に収めていただきたい。発言の際にはお名前をおっしゃっていただきたい。 **（本宿委員）**金沢区生活支援センターの本宿です。全体を通してだが、対応の考え方の対応分類の③について、内容によっては記載のとおり、「いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます」でもよいと思うが、16ページ、17ページの辺りではそれが連続していて、意見を挙げた当人からすると簡単に片づけられている印象を受けかねないと思う。16ページの87番は「今後の参考にさせていただき」の後が続いていて、量が多いので大変かと思うが、このように少し肉づけできるところはしていただけないか。対応分類の説明が下に書いてあるが、「今後の検討の参考とさせていただくもの」となっていて、文言が少し違う。「今後の参考にさせていただきます」

	よりも「今後の検討の参考とさせていただきます」のほうが何となく丁寧に扱われているような印象を私個人としては受けるので、特に意見としてボリュームの多いところはもう少し丁寧にできるとよいのかと。 **（事務局）**特に16ページ、17ページは３番が続いてしまうことと、③の対応分類の文言が違うということで、揃えるようにしたいと思う。肉づけのところで御意見をありがとうございます。この意見は特に記載すべきというものを教えていただけると大変助かる。なお、例えば92番などは事務局でもう１度確認したいと思う。 **（名和田委員長）**最初のほうは③に当たる場合であっても肉づけされているものが結構あって、最後のほうになると疲れてきたのかなという印象を招きかねないので、幾つか事務局でも御覧いただき、肉づけされていると③になった趣旨も分かるし、きちんと受け止めてもらっていると思えるので、できるところは修正していただきたい。 **（生田委員）**今のことに関連したことかもしれないが、私はケアプラザの者だが、159番にケアプラザの質問があって、「坂道にケアプラザがあって行きづらいから行事があっても参加できない」とある。これは私たちもよく聞く話である。近くにケアプラザが欲しい、数が少ないと思いますという意見に対して、「参考にさせていただきます」という今までどおりの文言がある。ケアプラザは概ね中学校区に１か所を目安に設置しているが、私の知っている状況だと、基本的にケアプラザの整備は終わって、これ以上は増えない。情報として、これはその他の部分になるのかもしれないが、既に無理と決まっているものに関してもこの対応でまとめてしまうと、もしかしたらもっとケアプラザを作ってもらえるのではないかと思われてしまう。その他の方法やその辺は真摯にお答えいただきたい。これだと、質問された方はケアプラザができるのかな、お願いすれば中学校区よりもたくさんできる可能性があるのかなと思われることもあると思い、心配になった。 **（事務局）**159番についても、④のままとはいえ、その後ろに続く文面を少し事務局で精査して、肉づけの仕方を工夫していきたいと思う。 **（名和田委員）**そのようにお願いしたい。ケアプラザは増えなくても、そこを少しでも示唆するとか、方法はあろうかと思うので、事務局のお知恵に期待したいと思う。 **（内海委員）**今、生田さんがおっしゃったことの関連となるが、ケアプラザ整備は終わっているので、現在、何か所あって、坂道の問題はどのぐらいあるのかは気になった。よく地区で話に出るのは、高齢者が歩いて一気には登れないので、休めるような椅子を設置するとか、そういう休憩広場みたいなものを設置してもらえないかとか、そういう具体策が出ることがあるので、施策のイメージを少し肉づけしたほうがよいのかと思った。また、７ページに身寄りのない高齢者についての意見が多くあるが、身寄りがあっても孤立している高齢者は結構多い。身寄りのないというだけではなく、男性の高齢者の孤立の問題は、一人暮らしの中では特に色々なところで問題になっているので、孤立の問題と身寄りのない問題と両方あると思う。身寄りがあるというと、こどもはいるがなかなか立ち寄ってもらえないという意味合いに取れるが、そうではない方もいる。 　対応分類は下に出ているが、番号のところを１マス開けると読みやすい。細かなところだが、①や③の意味がよく分からなかった。

	（名和田委員長）見栄えについては点検していただき、精査をお願いしたい。 　今の身寄りのないという問題で、御意見を踏まえて原案（案）を修正されたと思うが、一人暮らしなどの問題はきちんと踏まえられて、その中でも特に身寄りのないところに少し光を当ててほしいという御意見だったと思う。原案（案）を修正された事務局としては、そこは分かった上でこの意見を取り入れられたと想像しているが、事務局、いかがだろうか。 **（事務局）**名和田委員の御発言のとおり、そこの部分も踏まえてこの文言に落としている。 **（名和田委員長）**ただ、内海委員がおっしゃった問題はきちんと仕分けされて原案（案）になっていると思う。ほかによろしいか。 **（山野上委員）**市民セクターの山野上です。26番に「本計画には具体的な数値が全く記述されていない、ほかのところにも具体的なところがない」という意見があるが、計画は方向性を示すものである、ということをここにも入れると分かりやすいと思った。 　また、障害者プラン等の障害者の記述のところで、パブリックコメントが障害者に関するものが少なかったのだろうという想像はあるが、参考に障害団体や障害者からの意見がどれぐらいあったか、もし分かるようであれば教えてもらえると嬉しい。 **（名和田委員長）**団体からの意見は前回報告があったか。 **（山野上委員）**団体に聞きに行っているという話があった。 **（事務局）**件数について、この場で報告できないが、関係団体等には全てお聞きしている。 **（山野上委員）**ありがとうございます。 **（名和田委員長）**26番は私も多少気になった。そもそも地域福祉保健計画は始まるときからほかの計画と比べて異なる感覚が市の職員の中にもあって、そういう性格のものであることは一応全般的に了解された上で取り組まれてきたと思う。今回、ある意味画期的なことに評価の方法が確立されつつあって、定性的及び定量的な指標に従って計画を推進していこうという体制ができつつある。しかし、そういうことをここに書き加えると、とてもややこしくなるため、このような回答になっていると私は想像した。事務局で考えていただき、もし修正されるなら、されてもよいかと思う。 **（事務局）**名和田委員長の御発言のとおり、数値目標がなかなか難しいところもあり、先ほどの肉づけの工夫のところで、事務局で少し精査したいと思う。ありがとうございます。 **（名和田委員長）**何かぜひ指摘したいことがあれば。よろしいだろうか。パブリックコメントは私も職責上、全部拝見した。前向きな御意見や苦労されている御意見などが色々あって、非常に感銘を受けた。これだけ地域福祉保健計画が注目されていることに意を強くした次第である。今、幾つか小さい修正はありということが了解されているが、基本的にはこういった形で公開するということで御承認いただけるか。では修正されたところは後ほどの御報告をお願いしたいと思う。 **【議事２】第５期横浜市地域福祉保健計画評価方法について** **（事務局）**資料２、資料３について説明

	こちらの評価方法については資料５の原案、90ページから93ページにも評価方法として記載しているので、併せて御承認いただきたい。 **（名和田委員長）** ありがとうございました。この評価方法についても前回の委員会で御議論いただき、その結果を反映させて案が出てきている。御意見を伺いたい。 **（内田委員）** 横浜市身体障害者団体連合会の内田です。文言について、確認したいことがある。「第５期横浜市地域福祉保健計画の評価について」の裏面を見ると、地域や関係機関・支援機関がどのような取組をどれぐらい実施できたか、そのような内容が文章として載っているが、実際にロジックモデルを見ると、分からない言葉がたくさんある。色つきのロジックモデルの用紙である直接アウトカムの③に書いてある「協議体の開催数」、これはどういう団体なのか具体的には書いておらず分からない。また、この指標に矢印が伸びている指標には「地域における関係組織・団体の体制強化」と書いてある。この関係がどのようになっているのかが分からない。ほかにも「地域福祉団体」はどういう関係があるのか。地域など、表現が非常に曖昧で、できれば言葉を統一しないと一般市民が読んで分かりにくいと思う。もう少し文言を整理していただけるとありがたい。 **（事務局）** 文言については、本体冊子の資料編の中になるが、用語解説などをつけて、そちらを見ると分かるようにしていきたい。 **（名和田委員長）** 後ほど議題予定の資料５の原案（案）の中にも多数の箇所で直接アウトカムではこういう指標など、そういうところがあったかと思う。そこを御覧になると、こういう団体からこういう数字を集めるということがよりクリアに分かると思う。かつ、原案（案）では90ページ以下に改めて評価の仕方の説明が出ている。一般市民に提示されるのは主にこの計画冊子だと思うので、そちらでは割とクリアに分かると思う。今日提示されているこの資料は、これだけ見ると専門的で分かりにくいが、これ単体で提示されるわけではないと思うので、大丈夫ではないかと私も思う。 **（内田委員）** 今の話も理解できるが、問題なのはこちらの冊子のほうである。この文章を読むと、どうも私としては理解が難しい言葉がたくさんある。これは後で、この議論のときに御説明したいと思う。 **（名和田委員長）** 議事の３番目ということで。ほかにいかがだろうか。 **（久保田委員）** 薬剤師会の久保田です。評価全体を見て、とても苦労された跡がよく見えて、かなりうまくできているなと思って見ていた。非常に勉強になった。 中間アウトカムの上段部分に、定量評価だけではなく、聞き取りも踏まえて定性評価をしたいということでこの説明をアスタリスクでしていると思うが、わざわざ「定性評価」と入れたことによって分かりにくいと思った。聞き取りを踏まえて評価を行いますと書いて「定性評価」とわざわざ入れなくても、「定量評価」とはどこにも書いていないので、「そういう評価をします」だけのほうが伝わりやすいと思った。 **（事務局）** これまでの流れから、定量と定性の両面から評価していくことが大事ということが４期計画から引き継いだ内容だったので、そこにこだわって「定性評価」と書いたが、書かなくても伝わると思う。分かりやすいほうが良いので修正したい。 **（名和田委員長）** 今事務局から説明があったように、４期計画から引きずっている面もあるのと、地域福祉計画は定量的な評価は非常に難しいという流れがある。国ではK

	ＰＩといってなるべく数字を出しなさいという流れがあるが、それに対して数字を出すのはもともと難しい分野で、定性も大事だよねと主張する経緯があって「定性」という文言を入れたくなるのだと思う。そういうことはそろそろ定着したと見れば、正式の計画冊子では「定性」とわざわざ言わないとか、別の言い方をすることも考えられると思うので、また計画の最終確定に向けて御議論いただきたい。ほかにいかがだろうか。 **（山野上委員）**定量評価だが、開催の回数や場所の箇所数は出ていて、質までは行かないまでも、参加された人数や、そういう数字まで盛り込むのは大変だろうか。少しでもそこに人数がたくさん関わっていれば、意見などもたくさん出ているのだろうということにつながると思った。 **（事務局）**別紙２の評価指標を御覧いただくと、最初のほうは活動指標が並んでいるので開催数などが多いが、その後、下の直接アウトカムや中間アウトカムに行くに従って、何が起こったか、参加している人が多いかどうかという受講者数や参加者数などの数が出てくるかと思う。これも取ることが難しいものもあるが、できる限りそういったものを取って、成果・効果につながるアウトカムを把握していきたいと考えている。 **（山野上委員）**ありがとうございます。 **（福本委員）**地域子育て支援拠点の福本です。今の別紙２の評価指標のＮｏ．５の指標のところに「地域子育て支援拠点数（サテライト含む）」とあるが、各18区の拠点の数、設置個数はもう決まっているので、ここを評価されてもどうかと思う。各拠点で毎年どれぐらいの取組をやったかこども青少年局に報告を上げているはずである。父親支援や妊娠期支援など、最終的なアウトカム指標のところで、つながりを通じた住民による支えあいの充実がゴールなのだとすれば、どれだけの取組を行ったかの数を出したほうが、拠点のことが分かってもらえると思うが、いかがだろうか。 **（事務局）**地域子育て拠点数も４期計画のときには整備数となっていたものが、整備されたことで拠点数となり、維持も含めて数を把握する形にしたのだが、今おっしゃられたとおり、どんな取組が行われたか、そこにどれだけの人が参加されたかの指標を取ったほうがよりアウトカムに近い形で成果につながると思うので、そちらはこども青少年局とも相談して検討したいと思う。 **（名和田委員長）**子育て支援拠点はブランチみたいなものもあるかと思うが、それも含めて維持されていること自体が確かに大切なことで、評価指標の中にあってもよいと思うが、それ以外におっしゃった点のほうがより重要だと思うので、よろしくお願いしたい。ほかによろしいだろうか。評価についてはこういうやり方で評価していくということで御承認いただいてよろしいだろうか。 **（内田委員）**別紙２で分からないところがある。３番と64番は内容が似ているように思う。小学校とか、学校とか、色々言葉は変えているが、内容は同じものが載っている。地域理解に関する啓発、その実施回数、福祉教育の参加者数、その関係が３番と64番は似ていると思うので、まとめたほうが見やすいのではないかと思うが、いかがだろうか。 **（事務局）**前提として一つ確認、共有させていただきたい。別紙２の表中にある「ロジッ

クモデル掲載」の欄に黒い四角（■）がついているものが、カラーの別紙１のそれぞれの指標に書かれているものとリンクしている。ロジックモデルの数が限られているので、別紙２に書いてある数値を全てここに落とし込むことが難しいことから、代表的な指標に当たるものを精査し、別紙１のそれぞれの指標に書き込んでいる。その前提があった上で、様々な取組は社会福祉協議会や横浜市各局で、主に事業別に数値を取っている。その中には、ある程度重複感があるものもあれば、全く異なるものもある。それぞれの事業の中で取れる数値の中から地域福祉保健計画のロジックモデルにマッチするものはどれが一番よいか検討し、このロジックモデル掲載には使われていないけれども大事だと思われるものについては、この評価指標の中で数字を集めて最終的な評価には生かしていく予定である。今、内田委員からお話のあったところでいくと、64番の学校の福祉教育の参加者数に関しては直接アウトカム指標としてロジックモデル別紙１で活用する数値として考えている。重複する、似ている部分はあるが、もう少し広義の意味での小中学校でのつながりづくり・地域理解に関する啓発実施回数も別途あり、これはこれとして参考数値として取ることで生かしながら、具体的に使う数値としては64番を生かすということで、似通ってはいるが、どちらも活用するということから、この評価指標一覧に載せている。説明が分かりにくく、また番号と番号が飛んでいるので、もう少し整理できれば良かったと思うが、意味合いとしてはそのようになっている。

（名和田委員長）内田委員、よろしいだろうか。細かく見ていただいてありがとうございます。今の御説明も非常に明晰だったと思う。

（有本委員）このロジックモデルの評価を考えるに当たっても参加してきたが、とても明快になって、今は政策評価の観点でよく使われていることでもあるので、この地域福祉保健計画が色々な取組と同じように、頑張っている成果が評価につながるのではないかと思い、ロジックモデルの活用は賛成である。

また、今の御質問の点を少し補足すると、３番と64番が似ていると思われたことの私なりの理解を少し共有したいと思う。活動指標と直接アウトカムの区別は大変分かりにくく、似たように思われることは実際にあるかと思う。活動指標の３番は、実際の啓発活動が実施された回数という観点で評価されていると理解しているので、右側の活動の１（１）、図の中でいうと黄色い部分の評価の指標になると思う。一方で64番の学校の福祉教育の参加者数は、例えば今のような取組、またそのほかの活動も行った結果として、参加したこどもたちや学生が何人いたのかを通して直接アウトカム指標の⑩を評価しましょうという意味で「参加者数」となっている。そのような理解をしていた。これで違いがさらに御理解いただければと思い発言した次第である。

（名和田委員長）色々な新しい言葉が飛び交い、その意味でも難解なテーマだが、活動指標は通常、計画論でいうアウトプットというもので、アウトカムはその結果何が生じたかということで、普通はアウトカムで物事を把握せよと言われるが、アウトカムの中にも直接アウトカムと中間アウトカムがあり、最終アウトカムもあるということで、そこを精緻化しているので、一見、戸惑うところはあると思うが、よく御覧いただくとだんだん分かってくると思う。ぜひこれで本格的な評価を横浜市地域福祉保健計画でも実施できれば、さらに計画の推進に役立つと思う。この議事については、基

本的にはこのやり方で行くことを御承認いただいたものとして次の議事に進みたいと思う。

【議事３】第５期横浜市地域福祉保健計画 原案（案）について

（事務局）資料４、資料５について説明

（名和田委員長）ありがとうございました。資料５の分厚い冊子を御覧いただきながら議論をお願いしたい。素案に対する皆様方の御意見、御質問等やパブリックコメントの結果も踏まえ、かつ、事務局内部でのいろいろな調整や検討も踏まえてこのような形になっている。これについて今日は様々な御意見、御質問をいただきたいと思う。特に中心的な部分の第４章についてはぜひ御意見をたくさんいただきたいと思う。

（宇野委員）市民委員の宇野です。今年の夏に近所の小学生を束ねて夏祭りを行い、地域活動に自分自身で携わった。それはこどもたちのコミュニティを作って活動していくというもので、実際に行ってみて、ボランティアみたいな感じになって大変だなと思った。自分が正しいとか理想だとか言うつもりは全くないのだが、僕みたいな人を増やしていかないといけないと思い、そういった観点で話をしたいと思う。

　このロジックモデルの「地域における関係組織・団体の体制の強化」のところで、ここの課題を読むと、メンバーの減少や高齢化により、思うように活動できない課題があり、それに対して増やす工夫や、若手を巻き込んでいくなどの、そういった具体的な施策がないといけないと思っている。僕の個人的な感覚だと、正しいことや、まじめな話をしたところで、そもそもそういう研修があることをどのように周知するのか、どういう講師がそれを説明するのかは非常に大事だと思っていて、人の心を動かすための設計や、想像をする必要があると思っている。この案にどこまで具体的に書けるのかは非常に難しいところだと思うが、研修の内容や発信の仕方をもう少し踏み込んで書いてもらうとよいのかなと思う。実際にこの研修はどのような感じで実施を考えているのか、どのような講師がどのように進めていくのか、もし現段階で分かっていることがあれば教えてほしいと思う。

（名和田委員長）第４章の59ページ以下になるかと思う。事務局、いかがだろうか。

（事務局）担い手不足解消に向けた研修は具体的にそれぞれの区役所を含めさまざまなところで開催しており、今それを具体的に、どういう講師で、どういう内容の研修というのはなかなか難しいが、逆に委員の皆様でこういうものがあるなど、知っていれば、御意見をいただきたいと思う。

（名和田委員長）これは区計画と市計画の分担もあって、以前は、市計画は支援的計画のような言い方もしていた。区計画でさらに具体化されていくような分担関係もあって、特に第４期計画までに比べると、あまり具体的な事業を事細かに書かない形に第５期の原案はなっていると思う。ただ、計画にどこまで書くかは別にして、そういう方策が念頭にないといけないので、もし委員の方々で、このようなものはどうだろうかなどの御提案がありましたらお願いしたい。

（宇野委員）せっかくなので僕の考えを述べさせてもらうと、学校の授業みたいになると面白くないと思っていて、若手にアプローチするのであれば若手の人が行ったほうがよいと思うし、実際に経験したことがある人の生の情報を伝えることが大事だと思

	っている。若い世代に届くような工夫は、これを決めるとき、どうやったら若手に伝わるのかという議論をする場に若手、大学生でもよいと思うが、若い人たちが取り組んでみたいと思うかどうか、聞いてみたいと思うかどうかも試しにヒアリングした上で決めたほうがよいと思う。 **（有本委員）**金沢区の地福計画の推進委員会にも参加していて、金沢区で若手をという事例があるので２～３件ほど共有できればと思う。まず中学校の家庭科教育に地福計画の概要版を学ぶ資料が作られ、今導入が始まっている。もう１つは、金沢区は大学があるので、関東学院大学や横浜市立大学などのボランティアの組織との連携や、大学の学生・教員と区役所の方たちでいろいろな活動をするなど実際に取り組まれている。 **（事務局）**大変参考になる御意見をありがとうございました。 **（名和田委員長）**今の若い世代の参加は非常に大事ですね。何かほかに御発言があればお願いします。 **（久保田委員）**薬剤師会の久保田です。私は瀬谷区に住んでいて、瀬谷区の中では地区社協でも活動している。区役所で、居場所づくりを担う人たちの研修会みたいなものをここ何年も続けて行っている。そこには実際に活動している人が来て講師をしたり、そこで勉強した人がもう１回戻ってきて講師を担当したりといった活動を行っている。他には、区社協が中心になって、こども食堂や学習支援、ひきこもりのこどもの居場所づくりなど、テーマを決めて、実際に活動している人を講師として話をしてもらい、グループワークを取り入れた勉強会を、関係者を集めて開催している。今の話だと、名和田委員長がおっしゃった区計画の中に入ってくる内容だと思うので、トピックスとして、どこかで行っている活動を載せたらよいのではと思って聞いていた。 **（名和田委員長）**トピックスでいうと緑区の霧が丘の居場所づくりの事例が出ている。若い世代が頑張っている。霧が丘はインド人が多いこともあるし、都市整備局のまち普請事業で助成金を受けて活動していて、緑区の地域づくり大学校の関係の人が行っているなどのいろいろな背景があって、良い事例ではないかと思う。 **（事務局）**今、名和田委員長から御紹介いただいた霧が丘のkiricafeのトピックスは74ページに記載している。インドのインターナショナルスクールが地域にできたことで地域との関わりを深めている。実はこちらにはシニアクラブも大きく関わっていて、シニアクラブが関わる取組の一つとしても記載している。 　また、久保田委員から居場所づくりの研修会という話があったが、それに関わる取組は62ページの上に、南区で行われているこどもの居場所団体等の連携を通じた地域づくりということで、子育て世代などが集まるこどもの居場所の団体がそれぞれ連携して、協力し合って取組をしているというトピックスを掲載している。また、有本委員がおっしゃった学生を巻き込んだ取組については66ページ、こちらで神奈川区の神奈川大学と六角橋地域が連携して行っているプロジェクトの紹介をしている。78ページ、79ページにもボランティア体験を通じた青少年育成の記事や、学校法人岩崎学園という専門学校の学生が地域と連携してボランティア活動を行っている事例を載せている。若い世代を意識してトピックス等を作成している。 **（山田委員）**先ほどの宇野委員のお話に関連するが、いろいろな制度を新しく作ると

き、誰が行うかという担い手の問題はとても大事だと思う。担い手がいないところでいくらすばらしい制度を作っても、実施に至らないケースが多々あるのではないか。そういう点で担い手をどうするかということだが、以前住んでいた世田谷では、日本で初めてのやり方で市民の活動を支援する新しい試みを行った。どういうものかというと、幾つかのジャンルに分かれて、ジャンル別に私たちはこういう形で市民の連帯や地域の活性化を考えていますという１つのプランを提示したことに対して、行政が審査して支援金を出すという取組を行った。驚くことに、この活動をもっと広げたいということに100万円を進呈するとか、初めての取組に関しては５万円などのやり方があって、それが大変注目を浴びて、世田谷のいろいろな市民の団体がこぞって応募したというものだった。

私は、先ほど話に出ていた区計画の役割と市計画の役割の分担がよく分からないのだが、市で出したものを実際に区で行う、あるいはもっと地元に密着した活動団体が行う中で、世田谷で取り組んでいたような全体の取組でみんなの注目を浴びるという形は、区の単位ではなかなかできないのではないか。いつも僕は会議に出ていて思うのは、すごく良いプランで、みんなが頑張って良いものを考えているけれども、最後に誰がやるのか、どういう形でやっていくのかが正直言って見えてこないという実感を持っている。これは私がまだここに住んで間もないから、あなたは知らないのだと言われそうだが、実際に自分が住んでいる地域を見てもあまり感じられない。これだけ多くの人が知恵を出して行ったものを何か具体的な活動として、みんなが分かるようにする。ここに幾つかのトピックスが出ているが、そのトピックスも、実践しているほんのわずかな人にしか伝わらない。とてももったいない気がして、これはこの活動と関係ないかもしれないが、横浜市は福祉にこれだけ力を入れているのであれば、何か新しい形でみんなの注目を浴びてほかを引っ張るような、そういうものを具体的に実施してもらえるとありがたいといつも感じている。

また、話が違うかもしれないが、僕が横浜に引っ越したとき、小学校１年生ぐらいの女の子が「こんにちは」と挨拶してくれたことが最初の印象で、良いところに来たなとつくづく思った。おはよう、こんにちはという挨拶は、大人の会話の中ではほとんど聞かれない。何もお金をかけて大きな組織をやらなくても、例えば「こんにちは」の挨拶をしようと具体的に計画して、知らない人にでも「おはようございます」という挨拶をする、そういう国づくりというか、そういうことを一つでも実行すると、横浜はそういうところなのだという形が広がっていくような感じがする。ここで膨大な資料を読んでいるが、正直言ってよく分からない。勉強会に出ているような感じがして仕方がない。それよりも、すばらしいな、こういう活動があるのかということを聞かせてもらえることが僕はとても大事だとつくづく思うので、とんちんかんかもしれませんが、そんな感じをいつも思っている。

（事務局）計画の中でも、横浜市の全ての市民がいろいろな活動に参画したり、福祉活動だけではなく、市民活動だったりと様々な活動があると思う。挨拶もその一つだと思う。そういったものに少しでも関わっていただけるように地域福祉保健計画を推進していければと考えている。

（名和田委員長）宇野委員の問題提起からしばし議論しまして、現役で働いている方が

どう参加できるか、それはこの冊子の中にも少し書いてあったかと記憶している。その問題かなと思うがいかがか。

（事務局）補足すると、学生などの若い方の事例は幾つかあるが、宇野委員のように仕事をされながらボランティアに飛び込んでいくことは、きっかけとしていろいろと難しいところもある。宇野委員の事例は良い事例で、どのようにきっかけがあって、どのように仲間を集めたのかもお聞きして、そういった働き世代のボランティア活動への参加などもどこかに盛り込んでいけたらと私個人では考えている。

また、山田委員のおっしゃった活動支援の関係だが、社会福祉協議会で行っているふれあい助成金があるが、区をまたがっているものだと市で募集し、区で活動しているものは区で募集している。福祉関係から入るのではなく、文化とか、お仲間と楽しみたいということであれば市民局とか、区でいうと地域振興課で市民活動の補助金を毎年いろいろな形で募集し、そこからお仲間同士で集まってということもあるし、地域ケアプラザで活動しようと思ったら、市民活動から福祉の活動に入っていくとか、そういったことで補助金などを使って、お仲間や活動を活性化することには取り組んでいる。

（名和田委員長）働き世代の市民活動は、私も2020年にある区で自分の調査を行った際、最近は増えているという結論であった。ただ、頑張ってもらいたいので、宇野委員の事例をどこかに取り入れるとか、もし事務局でお考えがあればぜひ少し充実をお願いしたい。

（増子委員）保健活動推進員の増子です。私たちの地域には、横浜商科大学があり、昨年は学生さんが「地域ケアプラザ祭り」にボランティア活動で参加しました。今年は、私たちが区の保健師さんと横浜商科大学の「学際」に出向き「健康測定会」を実施しました。

体組成計で身体の健康状態を知り、パッチテストでアルコールが体質に合っているかをチェック、結果を知り安心したと好評でした。

呼びかけの効果もあり、学生さんだけでなく地域の方の来場もあってよかったです。

まだ、地域の祭りはコロナ前に戻りませんが、催事を継承するために小規模でいつまでも明るく楽しい生活ができるよう、体操教室、ウォーキング・子育て支援・認知症啓発活動などを実施しました。

早くコロナやインフルエンザが収まって、活発な活動ができることを願っています。

（名和田委員長）保健活動推進員については83ページにトピックスで記述してある。

（福本委員）子育て分野から福本です。宇野さんの話は拠点の大好物なので、拠点のところにオファーをかければすぐに動くと思う。こども青少年局にも確認を取ってもらいたいが、資料編の12ページに子育て支援拠点における相談件数が載って、コメントとしては、2014年から2022年までの間に相談件数が1.8倍となっていると書かれているが、これはサテライトが増えているので、増えるのは当たり前である。ここで見せたいのは、今の母親たちがどのようなことを拠点に相談に来ているかを、各拠点全部、年間で相談内容の個数を出しているので、もしそれが出せるのであればそちらに入れ替えてもらったほうが、市民の方たちに、今の母親たちはこういうことで悩みを抱えて拠点を利用しているのかということにつながると思うので、御検討をお願いした

	い。 **（事務局）**こども青少年局と相談して対応したいと思う。 **（内田委員）**２点ある。１点目は障害者団体が全くトピックスに載っていない。なぜ載っていないのか、理由は分からないが、障害には種類がたくさんある。それを市民が本当に知っているかどうか。また、実際に障害者活動の中心の場所は横浜ラポールである。それを皆さん御存じかどうか。そのことをアピールしないと、市民の皆さんは分からないと思う。当事者団体の活動は行っているのか、いないのかが見えない。見えるように何とか掲載していただけたらと思う。これを拝見すると、いろいろな団体の活動のトピックスがあるが、障害者団体はない。障害者団体の活動、ラポールの活動を載せれば、小学校、中学校の若い方々も、一般市民の方も御覧になって、一緒にやろうという連携、もっとバリアフリーができるのではないかと考えている。載せていただけたらありがたい。 　もう１点は、先ほど少し説明したが、例えば43ページの「課題解決に向けた住民・関係機関・団体の連携」、きちんとタイトルに載っているが、文章を読むと文言がばらばらである。統一したほうがよいと思う、もう一度確認して修正していただければ、市民にとってより分かりやすいと思う。特に地域と支援機関、関係機関の連携、地域、住民と関係機関の連携、これがどういう団体なのかが分からないので、はっきりと文章の内容を確認して、地域なのか、住民なのか、それをきちんと精査していただきたいと思う。ほかのページに関してもいろいろな文言が混在しているので、この団体がどういう団体かはっきり分かるように統一して作成していただきたいと思う。 **（事務局）**１点目の当事者団体の取組については72ページにあり、こちらでは横浜市障害者社会参加推進センターで行われているピア相談などの取組を紹介している。続いて関係機関、関係団体については、例えば関係機関と呼ばれるものの中に何が入っているかであれば、48ページの参考の図になるし、右上に関係機関・関係団体という枠があり、そこにどのような関係者がいるかということで社会福祉法人、施設、地域子育て支援拠点、学校、障害児者団体、障害者地域活動ホーム、精神障害者生活支援センター、居宅介護支援事業者、医療機関、サービス事業者、企業、ＮＰＯなどとしている。最後は「など」なのでほかにもいるかと思うが、そういった方たちが関係していることを示している。 **（名和田委員長）**内田委員、よろしいか。最後の冊子には用語解説のページも作るか。本当に難しい専門用語の用語解説のページはこの冊子の中にあったか。 **（事務局）**関係機関というのは先ほど申したように幅広いので、言葉のとおり、関係する機関としか読めないが、支援機関については資料編の38ページの「シ」のところで、この計画では行政と社協と地域ケアプラザが支援機関とされるものという形で記載している。 **（名和田委員長）**内田委員が御指摘になった表題と本文との照応は、住民と言えば分かっているだろうみたいな業界内部の了解みたいなものに寄りかかり過ぎていないかという問題提起かもしれないと承った。文章の作り方で随分印象が変わると思うので、工夫してもらうと随分違うのではないかと思う。 **（事務局）**一度精査して確認したいと思う。

	（内田委員）トピックスを拝見すると、横浜市障害者社会参加推進センターだけとなる。実際にどんな障害があるのかは書いてない。例えば聴覚障害者や視覚障害者、ほかにも発話ができない障害者、肢体不自由障害者や脳性麻痺の方など、そういった様々な障害があることを皆さんが御存じかどうか、それについては載っていない。そのような各団体をできれば載せたほうがよいと思う。聴覚障害者及び視覚障害者のように、どのような障害者なのかが書いていないので、できれば具体的な障害種別で書いていただけるとよいのではないかと思う。いかがだろうか。 **（事務局）**これは地域福祉保健計画ということで、福祉の全般を地域福祉の形で扱っている計画である。障害者プランの形で障害者の計画も個別にあり、具体的な個々の障害の内容やその説明については、個別計画のほうで具体的に詳しく書かれるものと横浜市としては今のところ考えている。 **（内田委員）**そうであれば、精神障害者というのは書いてある。ほかの障害は「障害者」だけで、どんな障害者か分からない。その点がとても引っかかる。せめて「身体障害者」とか、そのぐらいは記載していただかないと、精神障害者だけにスポットがあたってしまう。福祉保健計画としては全体のことを言っているのだから、より分かりやすいように載せていただきたいと思う。 **（名和田委員長）**精神障害については書かれていましたね。用語解説のところに改めて障害の定義というか、例の３障害から始まって、いろいろな障害があって、その理解が重要であることを記述していただく、そういった工夫をしていただくことでいかがだろうか。 **（内田委員）**そのとおりである。 **（事務局）**承知した。資料編の用語解説の中で障害についての解説を加えるようにしたいと思う。 **（名和田委員長）**場合によっては知らない人が結構いると思われる。ありがとうございます。ほかに御意見をさらに伺いたいと思う。 **（内海委員）**今の問題と関連するが、73ページの「ふくまちガイド」を今回のトピックスで取り上げていただいた。これは健常者も障害者もあらゆる人がまちの中で自由に動き回って暮らせるために作られたもので、昔は技術指針という非常に硬い名前だったが、この中にはどんな障害者の概念があるかが易しく分かりやすく、健常者と何が違うのかも含めて書いてあるので、具体的にはこれを見るとそんなことも分かりますという話を少し加えるのはいかがだろうか。 **（名和田委員長）**御提案をありがとうございます。事務局、ぜひ参考にしていただければ。 **（事務局）**ありがとうございました。参考にさせていただければと思う。 **（生田委員）**まず大前提として、市民参加の部分で様々なエッセンスや幅広く市民の方が参加するということで、トピックスをはじめいろいろと書いてある。これは非常にすばらしいが、気になることは、今までずっと地域活動の担い手として頑張っていた連合町内会、民児協、地区社協ほか、いわゆるずっと長年組織されて頑張っている団体ですね。59ページにその課題が書いてある。どこも人手不足だったり、高齢化が進んだりしている。今回のパブリックコメントでも老人会のことが少し出ていたが、老人

	会はまさにそうで、老人会は今、加入率がすごく下がっていて、皆さんその辺をとても気にしている。長年活動の中で培ったいろいろな活動内容があり、見方としては、推進するためにこれを行う、この内容がプラスアルファに見えてしまう。今までの活動をしていた上に、新しくこういうエッセンスもあるから福祉活動、保健活動を進めてくださいみたいに見える。そうなのだと思うが、60、61ページもそういう書き方ですよね。 　実際問題として、今までのものを皆さん必要だと思って継続されている上で、新しいエッセンスで新しいことを始める。でも加入率はどんどん下がっていくので、団体自体の力は残念ながら低下していく。活動量もきっと減っていくと思う。そうすると、ただただ新しい情報を入れるというより、逆に言えば、町内会なら町内会活動として整理して、こういうものを取り入れるには、ここはもう必要ないのではないか等少し整理するような考え方を入れてあげないと、団体としては、行政からいろいろと言われて、これをやらなければいけないになってしまうのは非常に良くないと思う。せっかく情報がいろいろと書いてあるので、少しその辺の活動内容を整理するお手伝いをしますではないが、ただ新しいエッセンスを入れるだけではなく、今の活動に合わせていくような視点で記入していただくと、関係者が読んだときに、今必要で大事なことと、ここはもう不要だと思えることを柔軟に考えられるのかなと思う。 **（事務局）**生田委員がおっしゃった御意見は、パブリックコメントの中でも民生委員に負担がかかり過ぎではないかという御意見があり、60ページに具体的な取組として、「地域における福祉保健活動を推進するための基盤づくり」の中の「地域における関係組織・団体の体制の強化」の中に「人材育成・確保/体制強化」という項目を設け、パブリックコメントの意見を受けて、上から２つ目にある、各種地域活動の負担軽減に向けた支援を今回追加した。 　また、地域活動の役割を補いあえる人材の確保に向けた支援や、既存の活動時間や内容に捉われない、働く世代が地域活動に参加しやすい体制づくりなど、この辺りでこれまで行ってきた団体に負担がかかり過ぎない支援策が何か検討できないかという取組について記載したつもりだが、もう一歩ということであれば具体的におっしゃっていただけるとありがたいと思う。 **（名和田委員長）**私も事務局が今おっしゃった生田委員の意見との関係ではそう理解していて、パブリックコメントを事務局としてこう受け止められたことは非常に重要なことで、自治会にせよ何にせよ、負担軽減というとそのまま必要性が薄れていくわけだから、単純に負担を軽減しては実は駄目ですよね。そのことを横浜市はよく分かっていて、こういう負担は減らすから、それで浮いた活動力をほかに回してくださいとおっしゃっている。だから負担軽減をここで言っていることは、もっと必要な活動を頑張りましょうという意味だと私は理解して、なるほどと思ったのだが、そんなに深読みする人は多くないので、ここは少し工夫されるとよいかなと思う。 **（生田委員）**これを申し上げたのは、町内会の中では、代々引き継がれて年々やること決まっているもので、やめられなくなっているものがたくさんある。それを整理しないと、もう手いっぱいで行っているので、これ以上新しいことはできない。それは任意団体なので「これはやめなさい」とは言えないと思うが、今名和田委員長がおっしゃっ

	た、何かを始めるためには何かをやめなければいけない、そういうところはそれでよいのだと分かるようにすると、今本当に必要なことを実施する方向になるのかと思う。 **（星委員）**ぱあとなあ神奈川の星です。資料４の13番から21番まで、先ほど身寄りのない問題のところで気になって見ていた。確かに身寄りのない問題で指摘されているような御意見も多いが、例えば16番だと、「権利擁護事業を実施する区社協あんしんセンターの機能強化」としてはどうかということで、それは身寄りのない問題を理由づけにしているが、実際は機能強化のことについて述べている内容ではないか。身寄りのない高齢者の支援の検討と一緒くたんにしてしまってよいのかどうかが気になった。 　それぞれページ数は出ているが、どこのページのことを指しているのか分かりづらいので、ページ数をきちんと合わせないと確認が取れない気がする。確かに身寄りのない高齢者の支援の検討という問題もあるが、意見の裏側の問題ももう少し確認していただいて、そちらもプラスして回答いただけるとよいのかなと思う。そのほかはきちんと書いてあるイメージである。 **（事務局）**今、星委員がおっしゃったページ数だが、左は素案を見て御意見をいただいているページなので、書いてあるページは素案のほうのページになる。中身については権利擁護の担当に代わりたいと思う。 **（事務局）**16番、権利擁護事業、区社協あんしんセンターの支援についてのところで、身寄りのない高齢者への支援策の検討という形で記載しているが、肉づけということで、理由のほうをこちらでも精査したいと思う。 **（佐藤委員）**自治会を担当している佐藤です。確かに自治会の組織は高齢化が進んでいるので、多少なりともレベルダウンはしていると思うが、皆さん一生懸命取り組んでくれている。また、市からの委嘱事業がすごくたくさん来ていて、これは人を選ぶだけでも大変だが、こちらも一生懸命取り組んでくれている。来年の３月末で青少年指導員が満期になるので、今は青少年指導員を各地区で１名ずつ選んでいる。１名ではなく、３名でも４名でもいいから選べば、１人当たりの負担が少なくなるので、まずはそれでやってみましょうという話を先週の区の定例会で話し、それで進めていこうという話になったのが１点。このような状況なので、市の委嘱事業は非常に負担になっているが、これがないと地域が動かないので、これはもうやむを得ないと腹をくくって取り組んでいる。 　話がばらばらになって申し訳ない。山田委員からありましたように、挨拶されてうれしかった話に関連して、これは10年ぐらい前に私が初めて地区の連合会長を担当した際、さあ何をやろうか、一生懸命悩んで、学校の副校長に、挨拶運動を取り組みたいので、学校では挨拶のスローガンを作ってくれないかと伝えた。「あいさつはあふれる笑顔のあいことば」というスローガンを学校の生徒会で作ってくれて、今度はその旗を作ろうとなり、旗を生徒会で作ってくれたことがある。私の地域は神之木西寺尾と言うが、これがあちこちに貼ってあって、「あいさつはあふれる笑顔のあいことば」というのが我々の地域の合言葉になって、地域と学校が結びついたことがある。このような取組も行っている。 　また、こういった計画をもらうといつも、自治会にいろいろな依頼が来るのだろうと

	思う。各自治会長、みんな理解しているが、どうするのか、だれがこれを行うのかと思っている。これから市から区に下りて、区から各地区に下りてくるが、自治会、民生委員といろいろと集まって、自分の地区は何をやるか、うちの弱いところは何か、地域が活性化できるものは何かと考えていく。そのような段階から組み立てていくわけである。 　困ったことは、前期はコロナで打合せができなくなり停滞してしまったので、全部積み残してある。これから取り組まねばならないことを、果たしてみんなに何と言おうかなと頭にある。取り組まないと地域の活性化はできない。先ほどから話があるように、我々の組織、自治会の組織は堅固なものなので、これを潰してしまうわけにもいかないし、これが潰れると横浜市や神奈川区の組織がなくなってしまうという自負はある。このような意味で各自治会長は必死になって取り組んでいる。皆さんの100%お役に立つかどうかは分からないが、30%ぐらい何とかなるだろうというのが私の見方である。よろしくどうぞお願いします。 **（名和田委員長）**本当に自治会、町内会には、横浜市では地域福祉の推進に本来の仕事として関わっていただいているところが非常にたくさんあって、本当に頼りにしている。 **（坂本委員）**横浜市歯科医師会の坂本です。この５期の原案に初めて歯科の文言が記載された。 　少し報告となるが、歯科医師会ではいろいろな活動を地道にしている。６月は歯と口の健康週間などで市民の皆様、区民の皆様に歯と口の健康の大切さを啓発している。 　私が住んでいる磯子区では、今年の健康週間のときに、来館数、チラシの配布数が18区の中で一番だった。本当に市民の口腔への関心が高くなっていると感じる 　また、先ほどもあったこどもの居場所では、少しずつこども食堂と関わり、社会福祉協議会と一緒に協力しながら、本当に地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいという気持ちがすごく強くなっている。ただ、18区全域、地区の地福計画策定・推進委員に歯科医師会が入っているわけではないので、そこも含めて少しずつ地域に根差して、市民の口の健康を守ってこの計画に貢献していきたいと思う。ありがとうございます。 **（名和田委員長）**私も幾つかの区で関わっているが、歯科医師会には本当にお世話になっている。ありがとうございます。 **（佐伯委員）**学校・地域コーディネーターを担当している佐伯です。先ほどふくまちガイドの話が出たが、うちの６年生が社会科の勉強、政治の単元で、法律は町と人々の暮らしをどう変えるか、このふくまちガイドを使って福祉について勉強をした。私がたまたま読書バリアフリーの活動を行っているので、読書バリアフリー法について触れたことによって、それからこどもたちが主体的に図書館に読書バリアフリーの棚を作ったりした。私の周りで聞いているところでは、車椅子体験や盲導犬ユーザーの方と会って話をしたなど、福祉体験がアフターコロナで少し増えてきたように感じている。私が先日、ある小学校に行った際、こどもに手話はできますかと聞かれて、手話で自分の名前を言ってくれたりとか、こどもたちは特別視ということではなく、障害を、多様性を受け入れていこうというような授業が入ってきているので、そんなに後ろ向きにならないでほしいと思う。

	資料編の15ページ、「今、家庭・地域等の多様な主体と学校との連携・協働が求められています」の真ん中辺りで、様々な活動の中に「福祉体験」という言葉も入れてほしいと思う。 **（名和田委員長）**学校との連携も、教育委員会で生徒基盤も整えているので、大変期待されるところだと思う。事務局、今の修正提案はよろしいだろうか。 **（事務局）**ありがとうございました。教育委員会と相談して、ぜひ入れるようにしたい。 **（名和田委員長）**もし御発言がなければ、最後に西尾委員に一言いただきたいのだが、よろしいだろうか。 **（西尾委員）**ありがとうございます。５期計画、パブリックコメントも多数頂戴し、評価の仕方も新たに目標を立てて評価しやすい形のものを組み込んでいただいて、５期計画の原案ができて、今日は皆さんの御意見もいただいた。事例やトピックスを入れたことで、私自身は非常に立体的になって理解しやすいものがたくさん入ったなと思ったが、見方によっては特徴が一方向になる面もあるのかなと感じた。 地域福祉計画、特に今日の御議論を伺っていて、法的な作りからいっても、地域福祉の推進役にはまず地域住民が最初に出てくる。これも行政計画としては非常に特異な、ユニークな性格のある計画で、その中には福祉サービスを必要とする地域住民という言葉も出てくる、つまり当事者である。当事者が地域住民の一員であって、いろいろな機会に参加できることが大事である。それが地域福祉の目標であると言っているので、当事者になる場合もあるし、一般の地域住民の場合もあるわけだが、それは入れ替わり得る。みんなが推進主体である。だからこそ、この課題は住民みんなのものになるという、そのプロセスが非常に重要な計画だと今日は改めて、こういう議論の中で初めて認識できるところもあるのではないかと思った 計画の組立てとしては、縦の分野別の計画、高齢、障害、子育て、健康に、横の土壌を支える意味で地域福祉計画が作られていて、最近では成年後見と生活困窮者が加わっているところも特徴で、さらに生活困窮者については制度のスタートから地域福祉的な、つまり給付だけではない、地域社会の中で役割を作り出していくという発想で作られた制度だけに、トピックスにも入っているが、自立支援制度との関わりはより強めていく必要があると思った。 分野でいうと、自殺対策やこどもの貧困対策なども関連がありますよ、それも地域福祉の課題ですよという意味合いだと思うが、来年からは孤独・孤立対策推進法も施行されるし、これも最近知ったが、売春防止法が改正されて、困難を抱える女性の福祉推進という法律に変わることもあって、地域福祉には当事者と一緒に考えていかなければいけない課題がこれだけ広がっている。そういう役割がこの５期計画の中でも期待されていると改めて感じた。 ロジックモデルを使った評価モデルを組み込んで、この本文中にも直接アウトカムの指標をはっきり入れていただいて、それはまさにこういう目標を推進するために何を進めることが地域社会、住民の変化をもたらすかを、推進する私たちが、あるいは地域住民が意識するのに非常に分かりやすい項目になっているので、これをぜひ意識して推進していかなければいけないと思った。 検討の中でも議論が出ていたが、例えば幅広い市民参加は、ボランティア団体数や、

活動参加者数で分かる面もあるが、参加する人の年代、属性、複合的な関わり方と、その関わり方の多様性も重要だという御意見は有本委員からいただいた。つまり、参加の人数だけではなくいろいろな関わり方ができるのである。例えばちょいボラや、少しの時間でも参加してみるという場合もあるし、宇野委員のように全面的に学校のこどもたちに関わって、時間を工夫して作られている場合もあると思う。寄附をする、クラウドファンディングに応援するという形の市民参加の仕方もいろいろあると思う。そういうところの質の評価はなかなか難しいと思うので、それは直接アウトカムの量的な評価をした上で、それを積み上げて、この委員会で議論して、どのようにこれがみんなの問題になって推進しているのかを議論できればよいのかなと思った。そういう意味で、区計画との役割分担の御意見があったが、まさに次は２年後の区計画になると思う。区計画の推進の参考書というか、テキストとしてとても参考になる案ができたと思っている。ありがとうございます。

（名和田委員長）ありがとうございます。これで原案の案というわけだが、基本的には皆様方からいただいて、事務局が約束された修正を加えて、原案として議会にお示しになる。そうやってだんだん来年度に向かって計画が確定していくことになる。私も、権利擁護や生活困窮者の問題も地域福祉保健計画の管轄内に入ってきて非常に責任が重たいと思うし、この会議体自体は社会福祉法人の地域貢献活動についての委員会も兼ねている感じのところもあって、随分重要な委員会になっていると思うが、それに比例して委員の方々にも随分頑張っていただいて本当にありがとうございます。

報告事項について事務局からお願いしたい。

【報告１】区地域福祉保健計画策定・推進指針の進捗について

（事務局）資料６を御覧いただきたい。市計画の策定が済み、次は区計画の策定の時期が2026年から2030年となる。それに先立ち、市計画は区計画を支援する計画というところで連動性を持って、こういった形で区の地域福祉保健計画策定・推進指針検討会を実施している。その進捗状況について御報告する。

第４期も事務局用の資料として策定指針を作成した。第５期はそれを改訂し、使いやすいもの、18区の区計画に生かせる形で指針を令和５年度中に作成したいと思っている。指針の作成に当たっては区役所の各課や区社協、地域ケアプラザの皆様に委員として出ていただき、検討会を設置している。この検討会はこの内容の全体の部分の整理や確認を行う「全体会」と、具体的な記載内容の検討が必要な項目について現場、地域の皆様の状況などを反映しやすい形で意見を頂戴する「作業部会」で構成して議論を進めている。各会の進捗状況については、第１回の全体会はこの日程で実施している。検討内容は２つ、指針の作成、指針の骨子案について、第２回目は２月に実施する予定である。

作業部会については「地区別支援チームの総合力の発揮について」で、第１回を10月に実施した。内容についてはより具体的に、総合力が発揮される背景や課題感を踏まえて地区別支援チームに期待される役割や機能についてと、その実現に向けて必要とされる視点や仕組み、具体化に向けた働きかけについて検討を進めている。次は12月に実施し、１回目の続きでさらに議論を深め、この指針に反映したいと思う。実際に

	それぞれの分野に、区役所であればこどもや高齢、障害、健康づくり部門などそれぞれの地区担当がおり、生活支援課等を含めて、その職員から見た地域の見方で総合力を発揮し、区の計画にも生かしつつ、連携を深めていければと考えている。 **（名和田委員長）**ありがとうございました。役所及び支援機関の場もこのように進めていますということで、本日の議事は終了とします。ありがとうございました。
資　　料	○令和５年度第２回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会　次第 ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会　委員名簿・事務局名簿 ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会運営要綱 ○第５期横浜市地域福祉保健計画素案に係るパブリックコメント実施結果について（資料１） ○第５期横浜市地域福祉保健計画　第３回評価検討会　報告（資料２） ○第４期横浜市地域福祉保健計画　評価について（資料３） ○第５期横浜市地域福祉保健計画原案（案）素案からの主な修正について（資料４） ○第５期横浜市地域福祉保健計画　原案（案）（資料５） ○区地域福祉保健計画策定・推進指針検討会の進捗報告について（資料６）